

論文1：観光リンケージ：首里景観形成地域

(まとめ)観光リンケージの概念は、観光のあらゆる要素（構造物、視覚、情報、交通、経済・マーケティング）において、連携を持たせることによって、持続可能な観光開発ができることを示唆している。今回は沖縄県那覇市首里金城地区景観形成地域をモデルに検証した「観光リンケージ」を再考する。構造物のリンケージがいまだ発展途上であること、交通リンケージと情報リンケージ、インタープリテーションリンケージが大分充実して来ていること、視覚的リンケージや経済・マーケティングリンケージも2006年の時点に比べるとかなり充実していることなどがあげられた。ここであげた6つの観光リンケージは全ての問題を解決できるものではないかもしれないが、むしろ観光地のシステムを開発する時に観光リンケージのレンズを通してみることの大切さを提示している。なぜなら、このことは観光経験をより良いものにし、何らかの観光の負の影響から地域を守りながら、地域住民に利益を与えるような形で、観光開発をモニタリングする目的を持つからである。

(感想)今回の金城地区の課題文で私は特に交通のリンケージが印象に残った。那覇市は2004年に地域内でシャトルサービスを立ち上げた。このバス路線は首里のホテルや石畳道、首里城や首里支所、モノレール駅等をつないでいると述べられていた。シャトルバス運行によって目的地を効率的に訪れることが可能になっただけでなく、渋滞などの観光公害対策にも効果的であると考え、とてもいい取り組みだと感じた。交通面だけでなく多様な観光リンケージから観光地を捉えなおすことが、観光によってもたらされる利益を最大限にし、負利益を最小限にする戦略を立てる手段として役立つのだと今回の首里金城地区景観形成地域の事例から理解することが出来た。